２０２６年度　北海道大学大学院
文学院修士課程入学試験（前期）

試験科目名	専門試験（　　欧米文学　　）
出題の意図	欧米文学科目の問題は、英米・英語圏文学、ロシア文学、フランス文学および西洋古典学（ギリシア語・ラテン語）の各分野から出題されている。出題の意図は、修士課程の標準修業年限内に修士論文を提出するための前提条件を満たしているかどうかを問うものである。具体的には、それぞれの分野における基本的な文学史・文学理論等に関する知識レヴェル及び欧文（英語、ロシア語、フランス語、ギリシア語、ラテン語）文献の読解力を判定する。

2026年度
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（前期）
（専門試験）　欧米文学　　全９枚のうち１枚目

この試験では，試験問題　９枚，解答用紙　２枚を配付する。

解答における注意

（専門試験）欧米文学の出題範囲は、英米・英語圏文学、フランス文学、ロシア文学、西洋古典学です。志望する分野に応じた出題範囲の問題を選択し、それの設問Ｉと設問IIに答えてください。

解答用紙は２枚あります。それぞれの解答用紙の回答欄の１行目左に、出題範囲と設問番号を記入してください。各設問は別の解答用紙を使ってください。

出題範囲・設問・ページ

英米・英語圏文学	設問Ｉ・設問II	２～３
フランス文学	設問Ｉ・設問II	４～５
ロシア文学	設問Ｉ・設問II	６～７
西洋古典学	設問Ｉ・設問II	８～９

［英米・英語圏文学］　設問Ⅰ

次の文学作品から二つを選び、その文学的意義について、一つの作品については日本語で、もう一つの作品については英語で、自由に論じなさい。

Romeo and Juliet
Jane Eyre
Moby-Dick
A Tale of Two Cities
Pudd'nhead Wilson
The Great Gatsby
The Member of the Wedding
The Remains of the Day

［英米・英語圏文学］　設問 II

次の英文を和訳せよ。

＊　問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典：James Joyce, “A Painful Case,” *Dubliners*, Jonathan Cape (1923), pp. 119-120.

［フランス文学］設問Ⅰ

以下のフランス語の文章をすべて和訳しなさい。

＊　問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典：Henry Rousso, *Le Syndrome de Vichy,* Seuil, 1987, p.155.

［フランス文学］設問 II

あなたが興味をもつ一人の作家をとりあげ、その作家のフランス文学史上の位置付けについて論じなさい。なお作家の名前、作品名はフランス語で記すこと。

［ロシア文学］　設問Ⅰ

次にあげる人物のうち一人について、その文学史上の意義を含めて説明しなさい。

1．Ф. Прокопович　(1681-1736)
2．К. Ф. Рылеев　(1795-1826)
3．А. Н. Островский　(1823-1886)
4．В. В. Ерофеев　(1938-1990)
5．С. Д. Довлатов　(1941-1990)

［ロシア文学］　設問 II

次の文を日本語に訳しなさい。

＊　問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典：*Романовский, В. А.* История российской эмиграции. М.: Прометей, 2022. С. 51.

［西洋古典学］　設問Ｉ

次の文を日本語に訳せ。また、この文の著者について、文学史上におけるその位置づけなど、知るところをなるべく詳細に述べよ。

Ποίας οὖν ἀρχὰς λέγω καὶ πόθεν φημὶ φύεσθαι τὰς πολιτείας πρῶτον; ὅταν ἢ διὰ κατακλυσμοὺς ἢ διὰ λοιμικὰς περιστάσεις ἢ δι' ἀφορίας καρπῶν ἢ δι' ἄλλας τοιαύτας αἰτίας φθορὰ γένηται τοῦ τῶν ἀνθρώπων γένους, οἵας ἤδη γεγονέναι παρειλήφαμεν καὶ πάλιν πολλάκις ἔσεσθ' ὁ λόγος αἱρεῖ, τότε δὴ συμφθειρομένων πάντων τῶν ἐπιτηδευμάτων καὶ τεχνῶν, ὅταν ἐκ τῶν περιλειφθέντων οἷον εἰ σπερμάτων αὖθις αὐξηθῇ σὺν χρόνῳ πλῆθος ἀνθρώπων, τότε δήπου, καθάπερ ἐπὶ τῶν ἄλλων ζῴων, καὶ ἐπὶ τούτων συναθροιζουμένων -- ὅπερ εἰκός, καὶ τούτους εἰς τὸ ὁμόφυλον συναγελάζεσθαι διὰ τὴν τῆς φύσεως ἀσθένειαν -- ἀνάγκη τὸν τῇ σωματικῇ ῥώμῃ καὶ τῇ ψυχικῇ τόλμῃ διαφέροντα, τοῦτον ἡγεῖσθαι καὶ κρατεῖν.

Polybius, *Historiae*, VI 5

註：

・*κατακλυσμός*　「洪水」

・*λοιμικός*　「疫病的な」

・*οἷον εἰ*　「言わば」

・*συναγελάζομαι*　「（ともに）群れる」

［西洋古典学］　設問Ⅱ
次の文を日本語に訳せ。

Ego qui diu tacui – silere quippe me fecit, cui meus sermo supplicium est –, prius exerceri cupio in paruo opere, et veluti quamdam rubiginem linguae abstergere, ut venire possim ad historiam latiorem. Scribere enim disposui – si tamen Dominus vitam dederit et si vituperatores mei saltem fugientem me et clausum persequi desierint – ab adventu Salvatoris usque ad nostram aetatem, id est, ab apostolis usque ad huius temporis faecem, quomodo et per quos Christi ecclesia nata sit, et adulta, persecutionibus creverit, et martyriis coronata sit; et postquam ad christianos principes venerit, potentia quidem et divitiis maior, sed virtutibus minor facta sit.

Hieronymus, *Vita Malchi*, I 2-3

註：
rubigo　さび
faex　かす、くず